

アオサギ観察会

アオサギの名

2006年4月21日

なぜ「青」サギなのか

その昔、日本には、黒、白、赤、青という四つの色がありました。もちろん他にも無数の色があつて名前も付けられていましたが、全ての色はこれら四色のどれかに区分されていたのです。黒と白は単色、黒でもなく白でもない、その中間の暖色系の色は赤、寒色系の色は青と呼ばれていました。アオサギの色は当然「青」ということになります。



サギの名の由来

上の写真の言葉に共通するものは何でしょう？ じつは、これらの単語は全て田植えと関連しています。もうひとつ、これらの単語は全てサで始まります。なぜかというところ、「サの神」という田んぼの神様がいたからです。サの神は田んぼの守り神でした。ついでに言うと、田植えの時期にサの神が山から下りて鎮座するところが「サ」クラの木、桜の下でサの神に豊作を祈願したのがお花見の起源です。最近、考古学の世界では、鶯は穀霊、すなわちサの神のお使い、もしくは穀霊そのものだとする説が出されています。であれば、サギという言葉もサの神由来であって不思議はありません。ギのほうは鳥一般につく語尾（たとえばシギ、トキ、キツツキなど）なので、その前にサをつけてサギというわけです。